

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 425 回 嫁ぐ娘へ

2011.6.26

幼稚園の父親参観日、
お父さんはもちろん誰よりも早く園に行っていたのだが、
役員だったから、色々園務を手伝っていた。
園長先生とやっと一息...その時担任の先生が飛んできた。
「飯島さん、早く、由実子ちゃんのところへ行ってやってください」
「あっ、しまった、忘れていた...」
ほかの園児達はお父さんと一緒に、楽しそうにお遊戯をやっていた。
その片隅に一人、必死に、泣くのを堪(こら)え、たたずむ年少組の由実子がいた。
あの時の顔をいまだに思い出す。

無骨で、頭の中はいつも仕事しかない、
温泉や旅館はいっぱい知っているけど、それは仕事、
たった一度の家族旅行、南紀白浜の旅も、実は、テレビの収録を兼ねた仕事だった。
小学校、中学、高校、そして大学と、
君のこと、殆んど分からないまま、あっという間に過ごしてしまった。
君のそばには、お母さんしかいなかったかもしれない。

そんな君が就職について、相談してくれた。
君の人生の大事な選択を、お父さんに相談してくれた。
嬉しくて、嬉しくて...。でも肝いりの照れ屋だから、
相変わらず仏頂面(ぶっちょうづら)していたに違いない。

「お父さんに会って欲しい人がいる」
その言葉を聞いた時、お父さんはどこへ逃げようかと、本気で画策した。

「今時、なかなかの奴だ...」、すぐにそう感じたが、頑固オヤジは素直でない。
決して言葉にしなかったけど、素敵な好青年を親父に紹介してくれた。

その彼の元へ、今日、娘は嫁いでいく。
生涯の伴侶と二人で、新しい人生を始めるという。

結婚式、頑固親父は決して泣かないと決めている。
若い二人が愛の絆を結び合う、その幸せを祝う日は、
滅多に見せない「頑固親父の笑顔」が似合うと思っている。

由実子、今までたくさんの「ありがとう」を、君から頂いた。
何もできなかった親父は、残り少ない生涯をかけて、君たちを守り抜く！
今日は、そう誓いを立てた記念日でもある。